

# 令和3年度「医療・介護連携 顔の見える関係づくり交流会」を開催しました！

テーマ：「コロナ禍における新たなつながり」

<交流会の目的>

- ・お互いに顔の見える関係づくりを行う。
- ・多（他）職種の相互理解を深め、実際の連携につなげることができる。
- ・互いの専門性、所属機関における、役割や視点、困りごと等の違いを理解し、利用者（患者）を支援する共通目標を達成するための連携を考える。

<内容>

テーマ：「コロナ禍における新たなつながり」

## 1 開会あいさつ

甲府市医師会 星野会長、甲府市福祉保健部 久保田部長

## 2 しんげんネットについてご案内

甲府市医師会在宅医療相談室 志田陽子看護師

## 3 しんげんネットを活用した有用事例報告

花形歯科医院 花形哲夫歯科医師

## 4 グループワーク

「コロナ禍における在宅医療・介護連携の現状」

## 5 グループ発表

## 6 全体の感想

<参加者>

113名（医師、歯科医師、看護師、ケアマネジャー、介護福祉士、保健師、薬剤師、社会福祉士、理学療法士、言語聴覚士、精神保健福祉士、ヘルパー、サービス管理責任者、事務職）



<しんげんネットの有用事例報告>



花形歯科医院 花形歯科医師

歯科訪問診療における ICT の活用事例を報告

義歯装着後、十分な咀嚼機能の改善がみられず、しんげんネットを使用して食事の状況（動画）が介護者から送られ相談された事例について、機能訓練の継続、食事の介助方法、食形態等の指導を実施された。

<グループワーク発表>

G1（宮田誠豊介護福祉士） G2（中込悠太理学療法士） 4 G（馬場みな美保健師）

G9（桂川謙祐言語聴覚士） G16（藤田理恵理学療法士）

- ・地域住民同士が相談の中でワクチン接種を皆で受け、地域ぐるみの感染対策を行ったことで、地域の体育祭が開催できた地区があった。住民同士の顔の見える関係やつながりの大切さを感じた。
- ・退院前カンファレンスは ICT を活用して実施した。
- ・感染対策を行い、小規模のカンファレンスを実施、患者自身も参加する中で本人の想いを確認した。
- ・コロナ禍だからこそ密に意識的に連絡を取り合った。
- ・オンラインによる会議で、県外の家族へ利用者の様子を送る等会議の幅が広がった。
- ・病院の連携窓口が混み合い連絡が取りにくくなったことで、病棟と直接連携する機会が増えた。
- ・リモート面会が「その人らしさ」や「家族の想い」知る機会となった。
- ・支援者側のスキルアップとして、短時間で効率よく、情報提供する力の必要性を感じた。



#### 古川尚志医師

対面が難しい状況があった。第6波への備えも必要である。ICT、しんげんネットを活用して、病院の関係者の方、入院の方の情報が共有できるとよいと感じた。顔の見える関係づくり交流会にも病院職員が多く参加されるとよい。

#### 秋山賢一歯科医師

38年前から在宅医療を実施している。顔の見える関係づくり交流会にも開催当初より参加している。歯科の場合は、対面で口の中を覗かなければならず感染対策が難しいが対策を取りながら実施している。現在クラスターは出ていない。口腔ケアをしていないと悲惨な状況になるため、在宅医療、歯科の活用をしてほしい。情報共有が大切である。

#### 植松俊彦薬剤師

動画があるとわかりやすくなる。今までは、退院時カンファレンスに薬剤師が出ることで自体が少なかったが、ICTの活用により参加する機会が増えた。

薬剤師は、薬を扱うことが専門であり、薬剤のセットを在宅で実施することも得意としている。訪問看護師が訪問時にセットすることがあると伺っているが、薬剤に関することを薬剤師が担うことで、訪問看護師の時間や手間を省けるので、薬剤師の活用をしてほしい。

